

■ 平成 29 年度予算編成について -港区役所の考え方-

1 区民主体のまちづくり

- 防災・防犯・福祉の各分野において、横系（区政）と縦系（各地域の活動）の交わる強いネットワークを構築し、引き続き地域と連携して取組を進めます。
- 地域活動協議会による自律的・持続的な地域運営や活動及び地域課題の解決に向けた取組を支援します。
- 身近な地域の中で住民同士が協力して生活課題等の解決に取り組むことができる豊かなコミュニティづくりを更に促進します。

特に、平成 33 年度の完成をめざして、弁天町駅前土地地区画整理記念事業として整備する「（仮称）交流会館」については、幅広い世代が出会い、活動し、交流できる「起点」としての機能を発揮し、将来に渡って港区に豊かなコミュニティを醸成する役割を果たす施設となるよう事業内容等の検討を進めます。

2 安全・安心・快適なまちづくり

【現状・トピックス等】

- ・平成 26 年度以降全 11 地域で地域主体の防災学習会及び避難訓練を実施しています。
- ・街頭犯罪については、昨年よりも減少していますが、ほぼ横ばいです。

- 区の特性を踏まえた防災対策を強化するとともに、地域防災力の強化を図ります。
- 街頭犯罪の発生状況に基づき、警察や地域との連携を一層強化するとともに、子ども安全見守りのための防犯カメラの設置を強化します。

3 健やかにいきいきと暮らせるまちづくり

【現状・トピックス等】

- ・港区の人口は、大阪市全体の人口が増加する中で減少しています。また、少子高齢化も市全体と比較してより進行しています。
- ・港区民の健康寿命は男性が 75.25 歳で市内 24 区の中で 3 番目に短く、女性は 80.69 歳で 24 区の中で 4 番目に短い状況です。（平成 22 年）
- ・港区の国民健康保険・特定健康診査受診率は 17.2% で市内 24 区の中で 1 番低くなっています。（平成 26 年度）

- 地域見守りコーディネーターを全 11 地域に配置し、住民主体の福祉コミュニティづくりを推進します。また、認知症支援のネットワークを強化します。
- 住みなれた地域で自分らしい生活を続けられるよう、在宅医療、介護連携を推進します。
- 生活習慣病の予防や疾病の早期発見など、区民の主体的な健康づくりの取組を進め、健康寿命の延伸をめざします。

- 世代や性別、国籍、文化、障がいの有無などの違いを認め合い、多様性を尊重しあう共生社会をめざします。

4 「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくり

【現状・トピックス等】

- ・ 港区内の 11 小学校のうち 5 校が「11 学級以下」の適正化の対象校になっています。(平成 28 年 5 月 1 日現在)
- ・ 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の状況は、大阪市平均以上の港区の小学校数は「算数 A」が 3 校、他の 4 科目は 2 校です。
- ・ 子どもの貧困が社会問題化しており、貧困の世代間連鎖の解消と夢と希望を持って成長していける社会を実現することが求められています。

- 学校と連携し、区の特性や強みを活かして、学力・体力の向上を支援します。
- 家庭学習の促進を図るため、学校・PTA・地域等と連携するとともに、塾代助成事業など、学校教育以外の学習の場への児童生徒の参加を促進します。
- 児童の教育環境改善のため、学校の規模と配置の適正化を検討します。
- 「小規模保育事業」を実施するなど、待機児童ゼロをめざすとともに、共働き世代のニーズにも応える多様な保育サービスの充実を図ります。
- 子育て支援団体やグループの活動の充実を促進します。
- 多文化カフェなど、教育を軸に多文化共生を推進する仕組みづくりをめざします。

5 訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり

【現状・トピックス等】

- ・ 平成 29 年は大阪港開港 150 年の節目の年です。
- ・ 平成 28 年 7 月にゲーム「ポケモン GO」が配信されて以降、天保山公園とその周辺が全国レベルの話題のスポットになる一方で、周辺の生活環境に影響が出ています。

- 港区の魅力ある地域資源を周知・活用しながら、地域、商店、企業等のさまざまな主体が連携協働して取り組む機会の提供を行うなど、地域の活性化を図ります。
- 港区の魅力の発信や創出のため「みなトクモン」の取組を促進します。
- 大阪の集客観光拠点の重点エリアに位置づけられている築港地区において、観光施策と連携して、まちづくりの視点から地域の活性化をめざします。
- 舟運イベントや築港・天保山エリアにおいて市民参加型イベントを実施することで大阪港開港 150 年の意義を市民・区民と共有します。